



札幌市立屯田南小学校
学校便り 学校評価特集②
令和8年(2026年)3月17日

雪解けも進み、春らしい日が続いています。今年度も残すところ僅かとなりました。日頃より、保護者・地域の皆様には、本校の教育活動への御理解と御協力を賜り、ありがとうございます。

2月27日(金)に、第2回学校運営協議会が行われ、学校運営協議委員の皆様から、今年度の本校の取組と次年度へ向けての改善策について外部評価をしていただきました。3月11日(水)発行の学校評価特集①では、令和8年度の主な行事予定と取組の一部についてお知らせしたところですが、今回は自己評価書及び学校関係者評価書がまとまりましたので、御報告いたします。

今後も、子どもたちの健やかな成長に向けて、保護者や地域の皆様の御理解と御協力をよろしく願いいたします。

令和7年度(2025年度) 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年(2026年)2月27日(金) 教務主任 檜 岳樹

1. 本年度の重点目標 ひまわりのように 笑顔輝け！

～夢いっぱい 笑顔いっぱい あいさついっぱい 屯田南っ子！～

2. 目標達成の手立て 輝く笑顔（子ども・保護者・地域・職員）のために

3. 本年度の経営方針

「知」…学びをすすめ、ふかまる「輝く笑顔」

おもしろそう！もっとやってみたい！→分かる・できる・楽しい授業

「徳」…心をつなげる「輝く笑顔」

優しい気持ち！友達への思いやり！→居心地の良い場所居

あいさつしあえる仲間

「体」…体がうごきだす「輝く笑顔」

楽しい！続けたい！→心地よい汗を流す健康な体

「安心・安全でひらかれた学校」…保護者・地域・職員、みんなが「輝く笑顔」

→「信頼される学校づくりへ」

子どもたちが…安心して学べる学校づくり

保護者や地域の方々が…安心して通わせられる学校づくり

私たち教職員が…安心して働ける学校づくり

※教育活動全体で、一人一人が大切にされていると実感できる「人間尊重の教育」を実践していく。

4. 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学びをすすめる、ふかまる「輝く笑顔」	○分かる・できる・楽しい授業	A	<p>○「自ら学び いきいきと伝え合う子の育成」を研究主題として授業づくりを進めた。学ぶ力を高め、自ら進んで学び、仲間との交流を通して互いに高め合う子を育てていくための授業実践を今年度も全学級担任が行ったことで、教師の授業力の向上を図り研鑽を深めることができた。</p> <p>○今年度は「他者と関わり、自己の学びを見つめる授業」を研究副主題として、特に「関わり」に着目して実践を行った。</p> <p>○成果としては、子どもが互いの発言を関連付け、教師が子どもの関わりを全体に広げることにつながりを生み出すことができた。この際に、ICTや視覚的な掲示物によって思考を可視化することで子どもの思考が活発化した。また、教師が授業を関連付けて計画し、子どもがつながりの意味を意識することで主体的に学ぶ姿が見られた。そして、子どもが授業で学んだことや感じたことを振り返ることで、新たな学びや日常生活と結びつけることができた。</p> <p>○課題としては、学びの目標から話し合いの内容が離れてしまっていたことが挙げられる。そのため、学びの深まりと自覚が足りなかった。また、振り返りにかける時間が確保できないことがあった。そして、振り返りのもち方にも善し悪しがあり、今後検討が必要である。</p> <p>○次年度は、これまでの研究の成果を発表する機会を設け、今までの学びを振り返り、職員共通の指導技術として定着させていきたい。</p> <p>○小中一貫した教育の取組で、パートナー校（屯田中央中学校、屯田西小学校）の先生方とも、お互いの学校の授業参観を行ったり、情報交換を行ったりして連携を深めることができた。（札幌市教育研究推進事業 春の研究集会として実施）</p> <p>○本校の授業実践の公開では、事後の授業検討会で、子どもたちの話の聞き方や教師に対する反応のよさなど、様々な面から御意見や御助言をいただき、深まりのある話し合いを行うことができた。特に今年度は、事前に授業者が授業のポイントについて説明する機会を設けた。参観者は、それぞれより具体的な課題をもって授業を参観することができた。</p>	A	A

※各項目 A、B、C の 3 段階評価です。

	<p>○専科指導など、個に応じた質の高い指導</p>	A	<p>○5・6年生外国語、3・4年生外国語活動で専科指導を行った。教科担任制の強みを生かしより専門性の高い授業が展開された。特に、今年度の担当教員は英語教育のスキルが高く、指導内容も充実していたし、ALTとの連携も順調だった。また、個に応じた指導を行うべく、担任と頻繁に情報を交換していた。</p> <p>○3・4・5・6年生理科でも専科指導を行った。理科では、実験など用具の準備に手間と時間がかかるが、専科指導教員が学年分の準備を行うことで効率的で、質の高い授業が行われた。また、授業中の様子について学級担任と情報交換を行い、児童の実態把握に努めていた。また、理科のノートを通して異学年間の児童の交流の機会を作るなど個のよさを広げる取り組みも効果的だった。</p>	A	A
	<p>○3つの「あ」の指導の充実 (あいさつ、歩き方、後始末)</p> <p>○規範意識の指導の充実 (交通安全、ルール)</p>	B	<p>○今年度は、ひまわり自治会で「あいさつ運動」を設定し、取組カードも活用しながら「あいさつの意識付け」を行った。高学年の子どもたちが全校をリードして取り組んだことで、挨拶をしようという意識が子どもたちに定着した。次年度も、挨拶を充実させるための継続した取り組みが必要。</p> <p>○交通安全や校外生活の指導については、学級ごとの指導の他、必要に応じて昼の校内放送などで全校的に指導や啓発を行った。全校で統一した指導を行うために、共通理解すべきことを全職員で再確認して指導にあたった。</p>	A	A
心をつなげる「輝く笑顔」	<p>○子どもの困り感の把握</p> <p>○いじめ対応 ○読書活動</p>	B	<p>○札幌市「悩みやいじめに関するアンケート」の他に学校独自の「子どもの困り感把握のためのアンケート」を実施し、実態をもとに家庭と連携して適切な指導をすることができた。次年度も、これまで以上に子どもの困り感を継続的に把握し、家庭と連携しながら、学校全体として対応していく。</p> <p>○本校のいじめ防止基本方針を基に、全職員で情報を共有し、組織的対応を行ったことでいじめの早期対応ができた。</p> <p>○食育、いのちの学習なども含め、自他の命や人とのつながりの大切さについて指導を行い、思いやりの気持ちを育むことができた。</p> <p>○子どもたちに読書習慣の定着を図るために朝読書を実施しているが、保護者アンケートの結果からは、家庭での読書習慣の定着にはつながっていない実態がある。しかし、地域読み聞かせサークルとの連携で読書が好きな機会を生み出すなど取組自体の質は高い。今後も週2回の朝読書を継続的に行うなど、じっくりと読書のよさに気付かせる機会も確保している。家庭での読書活動につながるよう保護者への啓蒙や本を手にする環境を引き続き整えていく。</p>	A	A

	<p>○「ひまわり活動」「クラブ活動」等を通した思いやりの心の育成</p>	<p>B</p> <p>○本校の特色のある教育活動の一つである「ひまわり活動」は、高学年の児童が主導し、異学年での交流を通して互いに親しくなることをねらいとして行ってきた。今年度は、「ひまわり遊び（小グループごとの交流活動）」、「ひまわり遠足」、卒業期に行う「ひまわりメッセージ会」の他に、全校児童が一堂に集う「ひまわりオープニング集会」と2月には「ひまわりラスト集会」を企画し実施した。</p> <p>○これらの活動を通して、低学年は、高学年に対する感謝と尊敬の念、高学年は、仲間意識やリーダー意識、他者を思いやる心が育った。</p> <p>○ひまわり活動については、その教育的効果をさらに高めるため次年度内容を精査する。課題は現状の回数ではグループ内の関わり深まらずに終わっていることである。より関わりが生まれるように形を変化させて異学年の児童が交流し合える活動を模索する。</p> <p>○「クラブ活動」は、本来のねらいである「4～6年生」の児童が所属する異学年での活動形態に戻して実施することができた。45分の設定では、準備・後片付け時間を除いた活動時間が十分保障できないことから今年度も60分の設定で6回実施した。60分あることで、子どもが1回毎の活動に満足することができた。</p> <p>○「始業式・終業式・全校朝会」などは、全校児童が会同する形式で行うことができた。全校児童が一堂に会することで、屯田南小学校の一員としての帰属意識を高めることができた。</p> <p>○4年生以上は「ひまわり活動カード」や「クラブ活動カード」を継続的に活用し、振り返りを行うことでキャリアパスポートと一緒に自己有用感を高めた。</p>	A	A
	<p>○外遊び、なわとび運動の推奨、体力向上の取組</p>	<p>A</p> <p>○今年度は体力向上担当の教員が配置されなかったが、主に企画が中心となって休み時間の縄跳び運動の推進や跳び箱・マット運動の奨励など、体力向上の取組を進めることができた。</p> <p>○「縄跳び運動」の取組は、体育の授業の他、年3回の「ひまわりカップ」の大会として実施し、目標回数を設定することで練習段階からの意欲付けを行い、大会に向けて積極的に活動する姿を見ることができた。</p> <p>○毎年継続して設定している「跳び箱・マット運動週間」では、全校で同時期に取り組むことで、準備と片付けの時間を短縮でき、活動時間を十分確保することができた。</p> <p>○5年生の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の他に、全学年で基本種目（走る・跳ぶ・投げる）を実施した。本校の子どもたちの運動能力の実態を把握するとともに、各種目の上位者を掲示するなど、目標を見える化し、意欲の向上につなげた。次年度も全校で実施して、子どもたちの体力の実態把握に取り組んでいく。</p>	A	A

体がうごきだす「輝く笑顔」	○食育、健康教育の充実	A	<p>○栄養教諭による食指導の充実を図ることができた。使用する野菜を育てる農家の紹介など、子どもがより広く食について考える機会となった。養護教諭による「いのちの学習」と合わせ、食や健康に関する関心を高める取組を計画的かつ効果的に進めることができた。</p> <p>○今年度も、児童アンケートや6年生の全国学力学習状況調査の結果から、家庭におけるスマホ・ケータイ・ゲーム機などの「長時間の使用」「規則正しい生活習慣」「家庭での学習習慣の定着」など、家庭と連携して指導していくべき点が明らかになっている。特に、家庭における「長時間の使用」は、本校でも低年齢化している。中間評価アンケートでは実態を把握するために児童の質問項目を増やした。集まったデータを基に、児童の生活リズムが安定するよう保護者の皆さんに働きかけることができた。</p>	A	A
	○家庭や地域との連携・協働	B	<p>○今年度も、「保護者引取訓練」を行うことができた。1年生の保護者も含め、スムーズに行うことができた。保護者の皆様の御協力に感謝している。今後も災害発生時の対応の重要事項と位置付けているので、次年度以降も継続して実施していく。</p> <p>○今年度も、地域やPTA安全ボランティアの方々に温かく見守っていただき、子どもだけではなく、教職員も安心して学校生活を送ることができている。特に登校時の様子については、「よい点」「改善点」を随時お知らせいただき学校の指導に役立てている。</p> <p>○学校・保護者間連絡システム「すぐーる」を活用し情報配信を行うことができた。「すぐーる」ではPDFを添付して直接お知らせできるので、ペーパーレスが進行している。また、子どもの手を通さずに直接保護者の皆さんに伝わることにもよい点だった。</p> <p>○今年度の学習参観、懇談の設定は、「4月」「7月」「12月」「年度末」の4回の設定とした。学習指導要領の学習内容の指導の充実のため、12月に「発表型参観」として学習参観の中で、児童の成長の様子が分かる授業を企画して実施した。発表型参観は2年目であり、平日開催、各学年発表の利点も明らかになってきた。しかし、保護者アンケートでは賛否合わせて多くの御意見を頂いた。より子どもたちにとって教育的効果が高く、現代の教育的要望に応えられる内容になるよう、工夫を続ける必要があるだろう。</p> <p>○懇談会への参加率が低下している。教師と保護者の連携を深めるために、複数で話す場よりも、対面で話す個人懇談の機会を増やすことが考えられる。また、発表型参観後は懇談会を行わず、保護者と子どもが一緒に帰ることができた方がよいだろう。</p> <p>○CS（コミュニティ・スクール）として様々な教育活動の中で、地域や保護者の方の参画が期待されている。今年度は4年生以上の児童で構成した「ひまわり自治会」を中心として、「あいさつ」について校内を中心とした活動を行った。屯田中央中学校生徒会が本校であいさつ活動を行うなど、連携は着実に進んでいる。また、地域学校連携事業として漢字検定や各種イベントも行われ、読み聞かせサークルの活動も盛んであり、地域の皆様の支援を感じることができている。これらの活動を基に、令和9年度のCSの実施に向け準備していく。</p>	A	B

--	--	--	--	--	--

5. 学校関係者評価委員による意見

【子どもたちの生活について】

- ・読書については、保護者の読書習慣についても見直す必要があるだろう。社会の変化に合わせて取組を工夫してほしい。
- ・いじめについては、実態の把握に努め続けてほしい。保育園、幼稚園から小学校、そして中学校へと集団生活を発展させていくために、適切な見守りが必要。
- ・専科指導がさらに推進されれば、子どもたちに専門性の高い授業を提供できるだけでなく、先生方の業務負担軽減につながると思いました。
- ・授業での話し合いは活発だが、内容が目標に向かっていない場合もある。話し合う力は将来にわたって役立つ技能であり、より質の高い話し合いで子どもたちの素養を高めてほしい。
- ・意欲の向上等をねらいとして、発表型参観時に低学年の児童が高学年の発表に参加、または観覧することはできないだろうか？

【保護者と学校の連携の在り方についてb】

- ・パートナー校との連携が保護者にとってもより身近に感じられる方策を模索できないか？
- ・子どもたちが学校で元気に活動している姿が印象に残っている。なかよし広場での縄跳び、多目的室のフラフープなど、子どもたちは創意工夫し元気に遊んでいた。保護者が子どもたちの活発な様子をもっと目にすることで、学校が運動機会の充実に取り組んでいることが伝わるのではないだろうか。
- ・子どもたちのスマホやSNS（LINE）などの使い方には家庭の指導が必要。使い始めの小学生の時期に、適切な指導を受けることが将来にわたっての財産になる。そのために、保護者も子どもがどのように使い方を学んでいくのか知ることが求められる。特に、与えたままで放置することが無いようにしたい。
- ・スマホ、ICTの使い方について警察ではなくデジタルに強い職種の方に子ども向け保護者向けに実施したい。講師については高校生や大学生といった考えもある。地域学校協働活動実施事業で行うことはできないか。

【学校評価の在り方について】

- ・アンケートの質問項目が回答しづらい。
→「～以前と比べ、運動習慣が身に付いていると思いますか？」運動に取り組んでいる子どもは、運動習慣がさらに向上するのは難しい。

【市教委への要望】

- ・各教室への冷房設備は設置されたが、災害時の避難場所であり、児童の体力向上にも体育の授業でも多用される体育館への冷房設備の設置も早期に期待したい。
- ・教員不足が報道される昨今、児童の心身の健全な育成には十分な職員数が必要と思われる。